

別紙 4

【薬効分類】 1 1 2 催眠鎮静剤、抗不安剤

【医薬品名】 トリアゾラム

【措置内容】 以下のように使用上の注意を改めること。

【「医療用医薬品添付文書の記載要領について」（平成9年4月25日付け薬発第606号局長通知）に基づく改訂（旧記載要領）】

下線は変更箇所

現行			改訂案		
<p>禁忌</p> <p>次の薬剤を投与中の患者：イトラコナゾール、フルコナゾール、ホスフルコナゾール、ポリコナゾール、ミコナゾール、HIVプロテアーゼ阻害剤（インジナビル、リトナビル等）、エファビレンツ、テラプレビル</p> <p>(新設)</p>			<p>禁忌</p> <p>次の薬剤を投与中の患者：イトラコナゾール、<u>ポサコナゾール</u>、フルコナゾール、ホスフルコナゾール、ポリコナゾール、ミコナゾール、HIVプロテアーゼ阻害剤（インジナビル、リトナビル等）、エファビレンツ、テラプレビル</p> <p><u>本剤により睡眠随伴症状（夢遊症状等）として異常行動を発現したことがある患者〔重篤な自傷・他傷行為、事故等に至る睡眠随伴症状を発現するおそれがある。〕</u></p>		
<p>相互作用</p> <p>併用禁忌</p>			<p>相互作用</p> <p>併用禁忌</p>		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子

<p>イトラコナゾール、フルコナゾール、ホスフルコナゾール、ボリコナゾール、ミコナゾール、HIVプロテアーゼ阻害剤（インジナビル、リトナビル等）、エファビレンツ、テラプレビル</p>	<p>本剤の血中濃度が上昇し、作用の増強及び作用時間の延長が起こるおそれがある。</p>	<p>本剤とこれらの薬剤の代謝酵素が同じ（CYP3A4）であるため、本剤の代謝が阻害される。</p>	<p>イトラコナゾール、ポサコナゾール、フルコナゾール、ホスフルコナゾール、ボリコナゾール、ミコナゾール、HIVプロテアーゼ阻害剤（インジナビル、リトナビル等）、エファビレンツ、テラプレビル</p>	<p>本剤の血中濃度が上昇し、作用の増強及び作用時間の延長が起こるおそれがある。</p>	<p>本剤とこれらの薬剤の代謝酵素が同じ（CYP3A4）であるため、本剤の代謝が阻害される。</p>
---	--	--	---	--	--

副作用

重大な副作用

精神症状：

刺激興奮、錯乱、攻撃性、夢遊症状、幻覚、妄想、激越等の精神症状があらわれることがあるので、患者の状態を十分観察し、異常が認められた場合には投与を中止すること。

一過性前向性健忘、もうろう状態：

一過性前向性健忘（中途覚醒時の出来事をおぼえていない等）、また、もうろう状態があらわれることがあるので、本剤を投与する場合には少量から開始するなど、慎重に行うこと。なお、十分に覚醒しないまま、車の運転、食事等を行い、その出来事を記憶

副作用

重大な副作用

精神症状：

刺激興奮、錯乱、攻撃性、幻覚、妄想、激越等の精神症状があらわれることがあるので、患者の状態を十分観察し、異常が認められた場合には投与を中止すること。

一過性前向性健忘、もうろう状態、睡眠随伴症状（夢遊症状等）：

一過性前向性健忘（中途覚醒時の出来事をおぼえていない等）、また、もうろう状態、睡眠随伴症状（夢遊症状等）があらわれることがあるので、本剤を投与する場合には少量から開始するな

していないとの報告がある。異常が認められた場合には投与を中止すること。	ど、慎重に行うこと。なお、十分に覚醒しないまま、車の運転、食事等を行い、その出来事を記憶していないとの報告がある。異常が認められた場合には投与を中止すること。
-------------------------------------	---

【「医療用医薬品の電子化された添付文書の記載要領について」(令和3年6月11日付け薬生発0611第1号局長通知)に基づく改訂(新記載要領)】

下線は変更箇所

現行			改訂案		
<p>2. 禁忌</p> <p>次の薬剤を投与中の患者：イトラコナゾール、フルコナゾール、ホスフルコナゾール、ボリコナゾール、ミコナゾール、HIVプロテアーゼ阻害剤（インジナビル、リトナビル等）、エファビレンツ、テラプレビル</p> <p>(新設)</p>			<p>2. 禁忌</p> <p>次の薬剤を投与中の患者：イトラコナゾール、<u>ポサコナゾール</u>、フルコナゾール、ホスフルコナゾール、ボリコナゾール、ミコナゾール、HIVプロテアーゼ阻害剤（インジナビル、リトナビル等）、エファビレンツ、テラプレビル</p> <p><u>本剤により睡眠随伴症状（夢遊症状等）として異常行動を発現したことがある患者〔重篤な自傷・他傷行為、事故等に至る睡眠随伴症状を発現するおそれがある。〕</u></p>		
<p>10. 相互作用</p> <p>10.1 併用禁忌</p>			<p>10. 相互作用</p> <p>10.1 併用禁忌</p>		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子	薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
イトラコナゾール、フルコナゾール、ホ	本剤の血中濃度が上昇し、作用の増強及	本剤とこれらの薬剤の代謝酵素が同じ	イトラコナゾール、 <u>ポサコナゾール</u> 、フ	本剤の血中濃度が上昇し、作用の増強及	本剤とこれらの薬剤の代謝酵素が同じ

スフルコナゾール、ボリコナゾール、ミコナゾール、HIVプロテアーゼ阻害剤（インジナビル、リトナビル等）、エファビレンツ、テラプレビル	び作用時間の延長が起こるおそれがある。	(CYP3A4)であるため、本剤の代謝が阻害される。	ルコナゾール、ホスフルコナゾール、ボリコナゾール、ミコナゾール、HIVプロテアーゼ阻害剤（インジナビル、リトナビル等）、エファビレンツ、テラプレビル	び作用時間の延長が起こるおそれがある。	(CYP3A4)であるため、本剤の代謝が阻害される。
11. 副作用 11.1 重大な副作用 精神症状 刺激興奮、錯乱、攻撃性、 <u>夢遊症状</u> 、幻覚、妄想、激越等があらわれることがある。 一過性前向性健忘、もうろう状態 本剤を投与する場合には少量から開始するなど、慎重に行うこと。なお、十分に覚醒しないまま、車の運転、食事等を行い、その出来事を記憶していないとの報告がある。			11. 副作用 11.1 重大な副作用 精神症状 刺激興奮、錯乱、攻撃性、幻覚、妄想、激越等があらわれることがある。 一過性前向性健忘、もうろう状態、 <u>睡眠随伴症状（夢遊症状等）</u> 本剤を投与する場合には少量から開始するなど、慎重に行うこと。なお、十分に覚醒しないまま、車の運転、食事等を行い、その出来事を記憶していないとの報告がある。		